

みえ産業振興ビジョン案 概要

みえ産業振興ビジョンの特徴・位置づけ

- ①概ね10年先を見据え、三重県の産業だけでなく県民生活や地域社会を取り巻く環境の変化等を想定しながら、中長期的な視点で、めざすべき産業の姿や産業政策の方向性を提示する。
- ②産業分野別の振興策だけではなく、県内の産業を振興することで、地域社会の様々な課題の解決にもつなげるという視点で政策を構築する。
- ③広く県民の皆さんの意識の変化を促し気運を高める、とりわけ10年後、20年後に地域社会の担い手である若者、子どもたちに県内の産業で活躍したいと思ってもらえるビジョンとする。

資料編

社会経済情勢等の変化 (P41～)

- ①人口減少・超高齢社会の到来と若者の県外への流出
- ②第4次産業革命による産業・就業構造の大転換
- ③多様な働き方の拡大
- ④高速交通ネットワークの拡大
- ⑤世界経済の中心がアジアへシフト

現行戦略の総括 (P52～)

- ①県内の主要産業（電気機械、自動車、石油化学）は再び成長軌道に乗るとともに、航空機や食関連産業をはじめ、観光産業も活発化しつつある
- ②サービス産業については、付加価値が増加しているものの、生産性向上が喫緊の課題

現場の声など (P70～)

【主要産業へのヒアリング】

- ・内燃機関関連部品の更なる高付加価値化、次世代自動車への対応（自動車）
- ・グローバル需要の取込（エレクトロニクス）
- ・2030年頃までを見据えた更なる競争力強化（石油化学産業）等

【企業アンケート調査】

- ・県内企業のICT導入 利活用への認識は低い
- ・本業を通じた地域貢献を重視する企業が増加
- ・経営課題のトップは「従業員の確保難」
- ・県内企業の外部連携（産学官連携等）比率の低さや海外展開の遅れが、依然として課題 等

【現場の声】

- ・労働力不足が深刻化
- ・事業者や人の交流・ネットワークが重要
- ・従業員のキャリアパスの明確化、従業員満足度の向上により、宿泊業の魅力向上を
- ・現状維持に精一杯な現場のサポートを 等

第1章

2030年頃の産業等の姿 (P1～)

①第4次産業革命等への適応

- ・県内ものづくり企業がICTを最大限に活用し、付加価値額を増加
- ・スマート・ファクトリー化が進展し、国際競争力が向上
- ・農林水産業のICT活用が進み、若者にも魅力ある稼げる産業に 等

②ダイバーシティ社会へ

- ・ICTを活用し、地方にいながら直接世界とつながることが可能に
- ・ICT技術が浸透する中で、女性、高齢者、障がい者の活躍の場も拡大
- ・副業、複業が一般的になるなど、多様な働き方が可能に 等

③スーパー・メガリージョンにおけるプレゼンス向上

- ・リニア中央新幹線の開通、第63回式年遷宮もあいまって、三重県が全国有数の観光先進県に 等

④アジア経済圏の一翼を担う

- ・みえの食が世界中から注目され、食関連産業が本県経済の主要産業に
- ・ハイエンドホテルの立地が進み、世界の富裕層から長期滞在リゾート地として注目 等

⑤地域課題の克服

- ・自動走行のコミュニティバスが、通園・通学、買い物、通院などのための送迎を展開。自動走行の一人乗りパーソナルビークルが活用され、県内全域で人々の生活の利便性が向上
- ・衣・食・住や介護など地域生活に密着した様々なサービスを総合的に担う事業者が、新たなビジネスを展開。高齢化をはじめとする地域課題の解決にも貢献し、地域生活の質を維持・向上 等

課題 (P5～)

①IoT, AIのビジネスへの積極的な取り込み（第4次産業革命への対応）

②今後、成長が期待される産業分野の育成

③アジアシフト化する世界経済への対応

④新たな知恵や知識、技術の取り込み、新しい価値の創出

⑤企業の社会的責任としての活動（地域課題解決等）の促進

⑥人材の確保・育成と多様な働き方の実現

⑦中小企業・小規模企業の振興とサービス産業の生産性向上

第2章

基本理念 (P14～)

【今後の産業政策で大切にしたい視点】

- ①産業を取り巻く社会経済情勢等の大転換への適応
- ②「若者」に魅力あるしごとへの創出
- ③「KUMINAOSHI」による新しい価値の創出

既存価値を超え、KUMINAOSHIの産業政策で若者が躍動する三重

～ 知恵や知識、技術を組み合わせ・繋ぎ直し、共感と協創による新しい三重の産業創出 ～

【KUMINAOSHI】企業活動や地域活性化の取組などにおいて、人材や技術、地域の資源、ビジネスなどのさまざまな要素について、既存のものだけでなく新たなものを積極的に取り込み、それらを組み合わせたり、繋ぎ直したりすることで、イノベーションを起こし新たな価値の創出につなげる。

4つの取組方向 (P18～)

取組方向1 ものづくり産業の第4次産業革命への適応

本県の強みであり、本県経済をけん引している「ものづくり産業」を維持し、持続的に発展させていくためにも、「ものづくり産業」の第4次産業革命への迅速な適応を促進していく。

次世代自動車産業・次世代素材産業・航空宇宙関連産業・ヘルスケア産業の振興、エレクトロニクス関連産業の更なる強化ものづくり中小企業の高付加価値化

取組方向2 多様な魅力（特性）を生かした付加価値の創出

世界にも誇れる県産食材や県産品、県内観光資源など、多様な三重県の魅力（特性）を再認識し、それらの活用を一層促進していくことで新たな付加価値の創出につなげる。

「食」関連産業・次世代エネルギー産業・サービス産業・伝統産業地場産業等の振興、観光の産業化の加速、戦略的なプロモーション活動の展開、国内外から選ばれる観光地づくりと誘客プロモーション

取組方向3 人口減少社会での地域課題の解決への貢献

人口減少と超高齢社会、さらには若者の県外への流出が続く中、都市地域や農山漁村地域それぞれが課題を抱えており、産業政策を通じて、そうした地域課題の解決にも貢献していく。

中小企業・小規模企業の円滑な事業承継、次世代ヘルスケア産業の創出、生活関連サービス産業の振興、「産学官連携拠点」との連携等による地域課題解決への貢献

取組方向4 産業プラットフォームの強化

1～3の取組方向に沿って力強く施策を推進していくため、産業基盤やネットワークを強化していく。

中小企業・小規模企業の振興・ICT化の促進、人材の育成・確保、戦略的企業誘致の推進と再投資の促進、クリエイティブな視点による新たな価値の創出、国際展開の推進、グローバル・アクセス等の整備と効果的活用